

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700141		
法人名	株式会社めいと我孫子布佐		
事業所名	めいとグループホームふさ		
所在地	千葉県我孫子市布佐2198番地		
自己評価作成日	令和3年6月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	令和3年7月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者が、持てる力を発揮し、個人の尊厳が守られ、安全・安心の中で、自律した生活を送れるよう支援している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年度は年度当初からのコロナ禍の影響で、これまでのように地域の行事への参加、家族参加型の行事、外出行事などは自粛しています。年間を通して新型コロナウイルス感染予防対策に力を入れて取り組んでいます。一方で、これまで行事等で活用していた時間を有効的に活用して、利用者の日常生活をいかに充実させていくかについて再度見直すことができましたことで、グループホームケアの特徴である自立支援の充実化につなげることができています。利用者のできることや得意なことを生かした支援を大切にして、今後に向けては少しずつ行事や外出行事なども増やし、生活の幅の拡充に向けた取り組みを検討しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事務所や掲示板に掲示しており、朝の朝礼時に唱和する等、全員が共有できるよう努めている。	事業所の理念として「心得」(五訓)を掲示しており、朝礼時の唱和により全体で共有化を図っています。特に五訓に謳われている自立支援については利用者の支援方針としてホーム全体で大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナ禍で限定的ではあるが、自治会や社協をはじめ、地域のイベントへ参加・協力をしている。また、地域の行事に参加し地域の方々との交流を深めている。	今年度はコロナ禍の影響でボランティア等の受け入れは止めています。コロナ禍収束後は地域との関りを再開していくことを検討しています。地域住民の方とはトラブルもなく日常的に良好な関係を築いています。	コロナ禍収束後においては地域との交流を再開していくことを検討しており、地域との交流を通して利用者の生活の幅がより広がることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、コロナ禍で限定的ではあるが、「介護相談センター」で相談を受け付けている。掲示板等を活用し啓蒙・告知を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	高齢者支援課の職員、民生委員、地域住民の代表等に参加いただき、貴重な意見・提案をいただき、サービスの向上につなげている。現在はコロナ禍で、書面での開催となっているが、アンケート等を実施している。	運営推進会議はコロナ禍の影響もあり、令和2年度は書面開催という形式をとっています。多くの方から意見等が抽出できるようにアンケートを事前に配布して利用者が楽しく生活が送れるような取り組みや感染対策などについて意見を確認しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者支援課やなんでも相談室と、随時、連絡・調整を行っている。	運営上相談事が生じた際には市の担当課へ連絡を入れて必要な指示を仰ぐことができる体制を築いています。今年度は新型コロナウイルス対策としてマスクを無償で配布頂くなどの協力を得られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心として、毎年、社内研修を行っている。日々の申送り、話し合いの中で、拘束を予防しながらケアを実践している。	身体拘束をしないケアの実践に向けホーム内に身体拘束廃止や虐待防止等のリスク委員会を設置して、毎月の全体会議の中で不適切ケアの発生が無いかについて確認を行っています。現状ホーム内において身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員での研修を行っている。ご利用者の言動に注意を払い、報告・連絡を行っている。	/	/

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員での研修を行っている。高齢者支援課、主治医等と連携し、支援している。必要時にご家族の相談にも応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項などの書類を使用し、十分な説明を心がけている。また、改正の度にご利用者(ご家族)に説明し理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にご家族とメールや電話で関わりを持っている。外部評価機関や介護相談委員を取り入れている。	コロナ禍の影響もあり家族からの意見や要望等については電話連絡を中心に確認しています。特に面会を要望する意見が多く、直接面会が難しい旨を伝え、オンライン面会の環境を構築するなど、できる限りの対応を図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申送りを行い、意見交換を行っている。また、全体会議や個人面談を通し、施設運営に関する意見を聞く機会を設けている。	管理者が中心となり職員と定期的に個人面談を実施しています。法人全体の運営方針等についても管理者が参加している法人内の施設長会議の内容をかみ砕きわかりやすく説明することで全職員の理解を深めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の実績評価にて、個々の実績を把握し給料等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	在籍期間、能力に応じて社内外の研修に参加、また全体会議での研修を通じて個々の能力を高めている。会社で初任者研修及び実務者研修のスクールを開校し、社内外の人材育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内、同業者との交流会や研修に参加する機会を設け、自施設のサービス向上に努めている。		

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、資料の提供、見学などに応じ、施設の雰囲気をご本人に合っているか等、ご本人の安心を確保する環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に、資料の提供、見学などに応じ、ご本人、ご家族それぞれの思いの傾聴に努め、情報をスタッフ間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関連各所と連携を図り、ご本人やご家族の状況や希望に即した的確なサービスに繋げることができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で一緒にできる作業を行っている。コミュニケーションに力を入れ、その情報を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご本人とご家族との関係の理解に努め、かつ、ご家族の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・縁者の面会や電話連絡、ズーム面会を促している。	馴染みの人や場所との関係継続に向けた支援では、行きつけの美容室の継続利用などできる限りの対応を図っています。今年度はコロナ禍のため外出は難しいですが家族等からの電話の取次ぎなどを通して関係性の継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	さりげない見守り、傾聴により、孤立することのないように支援している。		

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去後も、お見舞いや相談に応じている。相談に見えた方のその後についても、近況の把握や必要な情報の提供等にも努めている。また、ご家族からも報告を受けることが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、出来る限り希望、意向を聞き取り、次のケアに活かせるように努力している。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプランの作成および更新時に実施するアセスメントにおいて確認しています。抽出した意見や要望、課題等はケアプランに反映し日々の支援に反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・関係者からの聞き取りを行い、資料等を通して職員に周知し、ケアに活かしている。日々の会話の中でも情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申送り、カンファレンスにて把握、検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてご本人、ご家族と話し、カンファレンス担当者を中心に見直しをしている。	アセスメントで抽出した情報、利用者本人、家族、職員の意見を担当者会議で話し合い、総合的な意見を踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランの進捗定期のモニタリングで確認し、6ヶ月毎で短期目標を更新する仕組みとしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録と連絡ノートを活用し、ご利用者の変化に気付けるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアの視点に立ち、検討・実施している。		

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の施設、行事等を把握し、参加できるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでかかりつけ医との関係を大切にしてく一方で、必要に応じて協力病院への受診へ切り替えるなど、臨機応変に対応している。受診時にデータを用意したり、時には同行している。	ホーム入居後においても利用者はこれまでのかかりつけ医を継続することができ、ホーム側においても往診などを通して各利用者の主治医と連携を図りながら対応しています。利用者の体調変化時においても迅速な対応が図れる体制を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを、看護師に伝え相談し個々のご利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際は、病院関係者との情報交換や相談に努めている。連携シートを活用している。また、協力病院がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、その後は随時、ご利用者の「今後」について、ご家族と話し合い、方針を共有できるように努力している。また、生活の中で本人の意向をくみ取れるよう努力している。	重度化や終末期に向けたホームの方針については入居契約時に家族の方に説明し、方針を共有しています。生活していく中で利用者の重度化が見られる際には、家族、看護師、主治医を交え今後の方針を検討していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に社内研修を開催するなど、実践力を身に付ける努力をしている。マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	より実践に則したマニュアルを作成し、年間2回の防災訓練を実施している。地域の合同訓練へも参加している。	令和2年8月に夜間の災害を想定した避難訓練、令和3年3月に火災を想定した消火訓練を実施しています。隣接する法人内の事業所とも連携し水害時には高所へ避難できる体制を築いています。地域の協力も運営推進会議などを通して呼び掛けています。	

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重を第一に考え、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや行動をするように努力している。研修も実施している。	法人の「心得」(五訓)を日々唱和し、内容を徹底していくことで、利用者に対して適切な対応が図れるように取り組んでいます。職員には利用者の時代の常識に合わせた対応を呼びかけ適切な対応が図れるように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日々、出来る限り希望や思いを傾聴し、支援できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールの中で、一人ひとりの生活習慣や個性を大切に、余裕を持って過ごして頂ける対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、身だしなみの時間を設けたり、好みの化粧品を補充したり、限られた中にも気持ち良く過ごして頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事準備や片づけをご利用者のADLに合わせ、共に行っている。	利用者の状態を考慮しながら食事の盛り付けやテーブル拭き、後片付けなど利用者のかかわりを大切にして取り組んでいます。食事の楽しみに向けては、季節の旬の食材を取り入れたり、利用者の誕生月にはご当地メニューや好きなものをメニューに加えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは栄養士が管理している。一人ひとりの既往、嗜好等に合わせた食事形態や量などを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った声かけ、介助を行い口腔内の清潔を保っている。義歯は夜間、洗浄剤を使用している。必要に応じて訪問歯科でのクリーニングを勧めている。		

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しながら誘導している。また、一人ひとりの排泄のパターンを把握し、随時、排泄ケアの検討を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況を「排泄表」の記録し、排泄パターンを職員間で共有しています。排泄はトイレを基本とし、定時の声掛けや誘導によりトイレで排泄できるように日々支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	嗜好飲料や毎日の運動・歩行・腹部マッサージ等で便秘予防に取り組んでいる。医師・看護に相談し、下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう声掛けや時間帯等の工夫をしている。季節のしょうぶ湯、ゆず湯などを楽しんでいる。	利用者の体調やペースを配慮したうえで週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように取り組むほか、ゆず湯や菖蒲湯など季節風呂も楽しめるように取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、その日の体調や希望に合わせて空調管理をしている。夜間は、本人のペースに合わせた巡視を行っている。天気の良い日は布団を干している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の用法等を常に把握できるよう管理している。服薬と症状の変化を観察し、記録と申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活習慣、好みを活かした役割や楽しみを持ってもらうことで生活の活性化を図っている。好きな音楽、読書、体操、手工芸等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	小グループで散歩や買い物、地域行事、日帰り旅行に出かけている。ご家族の協力を得て、外出をしている。現在は、コロナ禍で自粛しており、近所の散歩とスーパーへの買い物に止めている。	今年度はコロナ禍の影響で全体での外出行事などは中止していますが、天候や気候の良い時期にはホーム周辺の散歩に小グループごとでお連れしたり、中庭に出ての外気浴などを通して気分転換につなげています。	コロナ禍の収束を見て外出活動を増やしていきたいと考えていることもあり、感染症の状況を確認しながら戸外活動も取り入れ利用者の活動の幅の拡充につなげることを期待します。

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、一人ひとりの希望や能力に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って対応している。手紙の作成、家族との電話の取り次ぎ、ズーム面会等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部などに花や、季節を感じることできる装飾等を取り入れている。	季節に合わせた装飾品を掲示するなどホーム内においても季節感が感じられるように工夫を凝らしています。掃除も日々徹底するほか、手すりや床、リビングのテーブルなどもこまめに消毒しています。感染対策として換気もこまめに行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席等を工夫し、他利用者と心地よく、安心して暮らせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の居間や寝室にあった小物を持参頂く等、工夫をし、ご利用者と共に部屋作りを行っている。	居室内にはこれまでの愛用品の持ち込みを可能とするほか、家具類の配置なども本人や家族の意向を確認しています。居室内も定期的に掃除を行い衛生面に配慮し、居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの自律を大切にし、理解力に合わせた表示方法等を工夫している。		